

# 真夏の南オーストラリア, アデレードでの体験

横田 俊之<sup>1)</sup>・須藤 公也<sup>2)</sup>

## 1. はじめに

2003年2月16日から2月19日に開催された第16回オーストラリア物理探査学会ASEG2003大会に参加するため、オーストラリアは南オーストラリア州・アデレードへ出張いたしましたのでその顛末についてご報告いたしたいと思います。

この文章は本来、社団法人物理探査学会の会誌『物理探査』に、日豪物理探査学会の友好・協力関係の増進を目的に投稿・掲載された原稿(横田・須藤, 2003)を、地質ニュース向けに書き直したものです。学会ごとにいろいろと事情は異なりますが、皆様の学会活動のご参考になればありがたいと思っております。

皆様もご存知のとおり、オーストラリアといえば、北半球に住むわれわれとは季節が逆です。少し考えると、南半球では冬が暑いのか、2月を夏と呼んで暑いのかちょっと悩むところなのですが、実際には2月は夏と呼ばれています。したがって、この報

告は、冬の北半球から真夏の南半球へと出かけていった一旅行者のお話と思ってお読みください。

## 2. アデレードについて

ASEG2003大会が開催された会場は、南オーストラリア州の州都アデレードにあるアデレードコンベンションセンターでした(写真1)。南オーストラリア州の人口は150万人程度であり、主要産業は鉱業で、石油、ガス、鉄鉱石などが採掘されています。世界最大級の鉛・亜鉛の鉱山ブロークンヒルはアデレードから約400km北、州境を越えてニューサウスウェールズ州にあります。鉛は南オーストラリア州から搬出されます。また州の中央部のクーパーペディー周辺はオパールの産地で世界のオパールの約80%が採取されることで有名です。

肝心の地質に関してですが、アデレードの北500km付近を南北に走るフリンダース山脈中央部のブラキナ渓谷では、10km以上にわたって、6億年以上前のプレ・カンブリア紀の露頭が見られて凄いのだそうです。

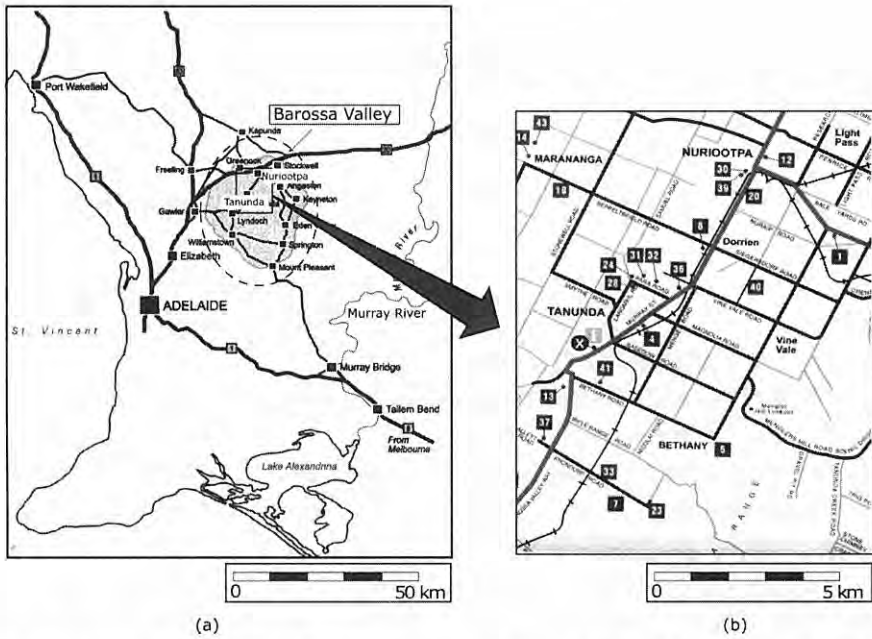
ワイン製造もオーストラリア1位でオーストラリアワインの約60%は、南オーストラリア州で生産されます。アデレード郊外のバロッサバレー(第1図)はワイナリーで有名な地域で、アデレード市街から車で1時間30分程度で行くことができます。著者も早速社会見学がてらに訪問してみました。朝からアデレード市街を出発したのですが、道に迷ったり雄大な自然を眺めたりしながら(写真2)のんびりと出かけたため、バロッサバレーのワイナリー(写真3)に到着した時にはお昼過ぎとなってしまう、せっかちな日本人のペースにあわないのんびりとした対応



写真1 トーレンス川の岸より対岸のアデレードコンベンションセンターを臨む。

1) 産総研 地圏資源環境研究部門  
2) Origin Energy Resources LTD :  
GPO Box 148, Brisben, QLD, 4001, Australia

キーワード: 第16回オーストラリア物理探査学会ASEG2003大会,  
アデレード, バロッサバレー



第1図 バロッサバレーの位置図。(a) アデレードからバロッサバレーへの道筋。(b) バロッサバレー周辺の拡大図。

や、自らバーベキューをするほかは食べ物にありつけそうもないこと等に業を煮やし、テイスティングもしないままワイナリーをあとにすることとなったのです。その後インフォメーション・センターで1993年度、バロッサ地区ベストレストランに選ばれたレストラン『1918』(写真4)の名前を聞きだした一行はおいしい食事と最高級ワイン(除、ドライバーの私)で人心地つくことになったのです(羨)。ちなみに、オーストラリア英語で『1918』という音はたいへん聞き

取りにくいです「ノインティーン・アイティーン(=ノインティーナйтиーン)」と言われると、なれない人は9090か9019に聞こえます。

州都であるアデレード市は、人口約100万人の静かで落ち着いた公園都市として知られています。街の中心に配置された公園(写真5)と古いゴシック様式の建物がたいへんよくマッチしており、日々のあわただしさをつかの間忘れさせてくれるのんびりとしたムードが良く醸し出されていました。



(a)



(b)

写真2 バロッサバレー付近の風景。(a) 亜熱帯植物とアロエとうす桃色の可憐な花。(b) 一面のブドウ畑。



写真3 ようやくたどり着いた、バロッサパレーのワイナリー。落ち着いた雰囲気てたいへんくつろぐことができる場所です。空腹の日本人にはお勧めできません。



写真5 アデレード市街の中心に位置するビクトリアスクエアの噴水。



写真4 バロッサ地区の隠れた名店レストラン「1918」。満面の笑みを浮かべる大久保泰邦氏(中央)と横田(右)の表情の違いの理由は?

聴衆も参加して討論するという形式がとられていました。これは、情報やアイデアの交換の機会としてなかなか好評でしたが、40分程度の短時間ではこれといった結論に達するまでには至っていませんでした。それでも、セッションの後まで、何人かが残って議論を続ける姿が見られ、討論の機会としての学会の機能は達成されていたように思われます。物理探査学会でも国際シンポジウムの後などにパネルディスカッションを行っていますが、なかなか活発な議論というところまではいかないようです。もちろん、英語での討論という点で敷居が高いという問題もあるのですが、欧米諸国と日本のディスカッションやディベートに関する文化・歴史の違いも関係しているような気がします。

### 3. ASEG2003大会の概要

ASEG2003大会の一般参加者は670名(全会期登録者と一日登録者の合計)で、それに加えて、高校生および高校教師150名程度が参加しました。この数は過去最高ではないけれども、それに近いレベルであると説明されていました。テクニカル・セッションにおいては、169件(5セッション同時並行)の口頭発表および20件のポスター発表が行われました。今年の新しい試みの一つは、石油探査のセッションにおけるパネルディスカッションでした。各々のテーマで、3件の講演に続いて4~5人のパネラーが壇上に上がり、短いコメントを述べた後、

### 4. ASEGの大会運営について

ASEGの大会は1年半ごとに開催され、開催時期が夏・冬交互なので、北半球から訪れる我々にとっては毎回真夏や真冬に逆の季節を経験することができ、楽しみなものです(体調を崩す危険が大きいという見方もありますが)。それぞれの大会ごとに、開催地の州に所属する会員のボランティアで実行委員会が組織され、大会の運営にあたります。この運営方針は、会員の関東一極集中が激しい物理探査学会(多分日本の多くの学会も同じ事情だと思います)とは様相を大きく異にします。ちなみに平成13年度版の物理探査学会の会員名簿(物

第1表 ASEG会員の州別集計.

州名	会員数
首都特別地域	64
ニューサウスウェールズ	162
北部準州	11
クイーンズランド	141
南オーストラリア	128
タスマニア	14
ビクトリア	89
西オーストラリア	342

理探査学会, 2001) を見てみると, 個人会員1,584人中, 関東在住者984人(うち東京在住者558人)となっています。一方ASEGはどうかというと, 2002年版のASEG会員名簿(ASEG, 2002)によると, (全会員1,204人)オーストラリア在住者951人中, 西オーストラリア州の342人は目立つものの北部準州やタスマニアを除くと他は比較的均等になっています(第1表)。横道にそれすぎたので話を元に戻すことにしましょう, 30人ほどのボランティアの実行委員は約2年間準備に追われます。すなわち, 前の回の大会が開催される前から大会運営はスタートを切っているのです。それもそのはずで, 毎回大会の閉会式には次回大会の予告編よろしく10分程度の映画が放映されるのが恒例になっています。著者も前回のプリズベン大会の閉会式で放映されたアデレード大会の予告編に登場した美味しそうなワインに相当心引かれ, 連続参加の大きな動機付けになったことを告白しておきます。実行委員会は600人にのぼる参加者を整理し, 講演・展示を組織するほか, 寄付集め, セミナー, パーティなどの付随行事の企画・運営まで面倒をみます。さらには, 学会自体の財政にも大きく貢献しているのです。というのも, ASEGの年次支出は会員からの年会費収入だけでは賄えないため, なんと講演会の利益が最初からあてにされており, しっかりと予算に組み込まれているのだそうです。したがって, 実行委員会には10万オーストラリアドル(約700万円)程度の収益を上げなくてはならないという過酷なノルマが課せられていることとなります。アデレード大会は成功裡に終り, 予算をかなり上回る利益があったといえます。閉会式で実行委員会のメンバーに対する拍手が非常に盛大であった理由の一つを垣間見た気がしました。

## 5. 学術講演以外の活動

### 5.1 Students' Day

Students' Dayとは定期大会の会期中に高校生および高校の先生を招待し, 有志の研究者が物理探査についての入門的な話をするのと同時に, 展示会の会場を案内して回るというものです。このイベントが企画された歴史的背景としては、『資源産業は環境破壊をしている』という誤った認識を訂正し, ASEGでは環境問題も重視していることを宣伝することであったそうです。この設立背景は, オーストラリアが非常に環境を重視する国であることを再確認させられます。このイベントのもう一つの大きな意義として, 物理探査技術の継承者育成という点があげられます。高校生に物理探査を知ってもらうことは長い目で見たときには潜在的な会員の発掘につながるのではないかと思います。第16回大会でStudents' Dayは6回目の開催を迎え, ASEG大会の一部として完全に定着しているようです。High School Students' Dayの参加者は例年より多く150人程度であったため, 午前と午後の2部に分けて講演と展示場巡りを催したそうです。

因みに前回(第15回)大会時に寄せられた高校生たちのアンケート結果によると(横田, 2001), 全員がStudents' Dayは有意義であったと回答しています。また、『あなたはこのセミナーに参加して, 地質・地球物理学を大学で専攻したいと思いますか?』という質問に対しては、『以前からそう思っていた』21%, 『このセミナーに参加してそう思うようになった』63%, と注目すべき結果も出ています。もちろんこの結果を鵜呑みにすることは出来ませんが, セミナーを受講した高校生が, 自分たちの見聞したことを友人や家族に話をするなどまでを考慮に入れると, このセミナーの宣伝効果については高く評価して良いと思います。

今回はそれに加えて, 大学学部生を対象としたUndergraduate Students' Dayが開催されましたが, こちらの方はあまり盛況ではなかったようです。一方, 大学院生は自らの企画でアデレード大学においてバーベキューパーティを開催し, 大会に参加した学生同士の親交を図ったそうですし, 彼らは実行委員として学会運営に積極的に参加しているそうです。この企画力・行動力は学生同士の交流



写真6 Conference dinner会場のアデレードオーバル(横田・須藤, 2003)。ラグビーやオージーフットボールなどが開催されます。背景のスコアボードはクリケットのスコアを表示しています。写真撮影時はConference dinner前のpre-dinner drinkの時間でした。写真左の蝶ネクタイの人物がASEG会長(当時)のKevin Dodds氏, Dodds夫人(中央), 内田利弘氏(右)。

が少ない(尾西, 2003)日本の物理探査学会でも是非学んでもらいたいところだと思いました(理学系の学会では事情が異なるのだと思いますが)。

## 5.2 Conference Dinner

大会中の社交的行事の花形であるConference Dinnerはコンベンションセンターから川を一つ隔てたアデレードオーバルという球技場(写真6)敷地内に設けられた会場にて実施されました。オーストラリア最高級のワイン, 最高級の食事を堪能したばかりではなく、オーストラリア最高の人気手品師のRay Crowe氏による楽しいマジック・ショー(写真7)などで参加者全員が大いに楽しみ、リラックスすることができました。欧米の会議では、ディナーの余興は人気キャラクターの冗談混じりのスピーチと相場が決っていますが、英語が得意でない我々外国人は、往々にして周囲の人が笑っているから笑う・・・ような悲しい状況に陥ることがあります。その点マジック・ショーは我々外国人も心の底から(安心して)楽しむことができるたいへん良い企画であると感じました。

## 5.3 物理探査学会-ASEG共同出版

ASEG2003大会とは直接関係はありませんが、



写真7 Conference dinnerの楽しいマジック・ショーで我々を大いに楽しませてくれた、オーストラリア最高の人気手品師のRay Crowe氏(左)および散々にからかわれたASEG2003のco-chairのMike Hatch氏(右)。

物理探査学会とASEGでは、将来両学会共同で国際学術誌を持つというユニークな動きが始まっています。物理探査学会、ASEGともにこの共同出版に関するワーキンググループを構成しており、今回のASEG大会を機に、お互いのワーキンググループメンバーが一同に会して話し合いを持ち、この共同出版に関して実質的にゴーサインが出された記念すべき時となりました。この共同出版に関しては、その後韓国の物理探査学会(KSEG)が合流し、3学会での共同出版を行うこととなりました。1. 西太平洋地域における物理探査の国際誌であること、2. 現在、物理探査部門でホットな話題である環境関係・浅部の物理探査に関する国際誌であること、などの本質的な意義については疑うべくも無いのですが、それに加えてこの共同出版はお互いの機関誌の名前をそのまま冠した出版物となり、それに伴いISSNも3つ持つというたいへんユニークな仕上がりとなる予定です。出版予定は2004年2月ですので、皆様お楽しみにお待ちください。

## 6. おわりに

今回のASEG大会はちょうど米軍のイラク侵攻直前に開催されました。折しも大久保泰邦氏(現在産総研 国際地質協力室所属)と著者がアデレード入りした2月16日は、世界規模で繰り広げられた反戦デモの期間中にあたり、まさに我々はその隊列に遭



写真8 全世界に広がった反戦デモ当日のアデレード市街(横田・須藤, 2003)。手前左にクエーカー教徒のプラカードが見られます。ちなみにクエーカー教は地震探査とは何の関係もありません。

遇しました(写真8)。我々は、様々なルートをとって市の中心部(アデレードコンベンションセンター、我々の滞在予定のホテルとも市の中心にあります)に接近を試みましたが、そのたびに警官にUターンを命じられ、非常にたいへんな思いをしました。このデモは、2月14日のオーストラリア・メルボルンでの20万人規模の抗議行動から全世界に広がったものだそうで、2月15日のシドニーでの25万人規模の行動とも併せ、オーストラリア史上最大の抗議行動となったそうです。イラクをはじめとする中東地域

はもとより数多くの邦人が活躍されている地でしたが、イラク復興支援特別措置法案の制定により、今後自衛隊員を始めとする邦人がさらに多数当地へ派遣されようとしています。皆様のご無事と『戦争』の早期終結を祈りつつ筆をおくこととしたいと思います。

謝辞：本稿は社団法人物理探査学会の会誌「物理探査」に掲載された報告『ASEG2003に参加して』に加筆、修正を行ったものです。社団法人物理探査学会には公表を許可して頂くと共に、著作権を有する図の転載を許可して頂きました。ここに明記し著者一同の感謝の意を表します。

今回、投稿の機会を与えてくださいました、地質ニュース編集委員会の皆様には心から感謝いたします。

#### 参 照 文 献

- ASEG (2002) : Membership Directory 2002, in Koya Suto ed.  
 物理探査学会 (2001) : (社) 物理探査学会会員名簿。  
 尾西恭亮 (2003) : 第72回SEG年次会議報告-古酒と新酒の利き比べ, 物理探査, 56, 57-59。  
 横田俊之 (2001) : 学会と社会の接点-ASEG2001参加記外伝, 物理探査, 54, 312-314。  
 横田俊之・須藤公也 (2003) : ASEG2003に参加して, 物理探査, 56, 195-198。

YOKOTA Toshiyuki and SUTO Koya (2003) : A midsummer experience in Adelaide, South Australia.

< 受付 : 2003年8月1日 >